

## 原発問題を考えよう！

### 地震列島(日本)に原発はいらない！！

新年になり、昨年福島第一原子力発電所の事故から10ヶ月近くが経ちました。先月16日には、野田首相が福島第一原発事故に関して「冷温停止状態」に入ったとして収束に向けた工程表のステップ2を完了し「事故そのものは収束した」と記者会見しました。また、先月2日には東京電力が福島第一原発事故の社内調査の中間報告を公表。26日には政府の事故調査・検証委員会が中間報告を発表しました。

東京電力は、中間報告で「事故は想定外の津波が原因」「仕方なかった」と自己弁護に終始していますし、政府の事故調査・検証委員会の中間報告で「大津波を想定する試算があったにもかかわらず対策を講じなかった」という指摘に対して「試算は十分な科学的合理性がなかった」として反論しています。

つまり、東京電力はこれほど多くの国民に多大な被害をおよぼしたにもかかわらず、福島第一原発事故(メルトダウン)は地震が直接の原因でなく、海底で起きた大地震による想定外の津波で全ての電源が喪失したのが原因で仕方なかったと責任を回避しようとしているようです。

本当に、地震(揺れ)で原発は壊れなかったのでしょうか？

### 地震列島で原発の「絶対安全」「安全神話」は夢物語！？

過去に起きた地震で、各地の原発で建屋にひびが入ったり、配管が破損したり、変圧器が火災になるなどの被害が発生し、運転停止に追い込まれた例があります。東日本大震災の東北地方太平洋沖地震は1000年に1度のM9.0クラスの巨大地震と言われており、この巨大地震によって原発が壊れなかったとするには無理があるように思えますが、東京電力は明らかにしていません。

メルトダウンの主な原因である全電源喪失は補助電源装置や燃料タンクが大津波によって破壊されたためと言われてはいますが、それ以前に外部電源が喪失したことがそもそもの原因です。この外部電源喪失は、原発に外部から電気を供給する送電鉄塔が地震で倒壊したためであり、東京電力も認めている事実です。

このように「地震による破壊」「地震で発生した津波による破壊」のどちらにせよ原発事故で多くの国民が被害を受けた結果は何ら変わりません。政府・野田首相が「冷温停止状態で事故そのものは収束した」と公式発表しても、事故から10ヶ月も経った現在でも多くの国民が自宅に帰ることすら出来ないのが現実なのです。

原発事故は、想定外の自然災害(地震・津波)が原因だからと言ってすまされる問題ではありません。今回の福島第一原発事故でも明らかのように地震列島で原発の「絶対安全」「安全神話」は夢物語です。従って、地震列島(日本)にある原発は直ちに停止し、廃炉にすべきです。

明日の日本のためにも原発問題を考え、行動しましょう！